

わたしの修習時代

紀尾井町：1948-70

湯島：1971-93

和光：1994-

29期

活発な時代を体感・共有した 我が29期



会員 岩出 誠 (29期)

この原稿を依頼された昨年、2011年8月28日には、我が29期は、司法研修所卒業35年目祝賀会を名古屋で盛大に開催した。その席で盛り上がる話は、やはり、なつかしい修習生時代のことだった。それは、1975年4月から1977年3月までの2年間だ。

当時の修習生は、学生時代に、1968年のパリの5月革命や、1969年安田講堂事件、1970年沖縄返還闘争、全世界でのベトナム反戦運動などが活発な時代を体感し、それらの運動に身を挺したか否かは措いても、その時代感覚を共有していた者が多かった。そのため、宴会でも、反戦歌、プロテストソングに留まらず、今ではほとんど聞かれなくなったインターナショナル、ワルシャワ労働歌などの革命歌がしょっちゅう飛び出す情勢だった。

しかし、修習自体には、真面目に取り組み、起案をめぐる議論もけんけんがくがくと続いた。特に、前期修習の刑裁修習では、悪い意味での実務感覚などありもせず、大いに無罪論を教官と闘わずことも度々あった。長野での実務修習に入っても、弁護修習以外では、ジュリストの重要判例集の読破を目指し、輪番制で、最低一つ以上の他の評釈をも踏まえた当番の報告を中心に判例研究を続けていた。

しかし、遊ぶ機会も少し(?)はあった。大学院生からそのまま修習生になった私が、初めて風俗系(今で言えばキャバクラ程度だが)に行ったのも、前期の最後に、6組の同級生で、裁判官となった同期生らとであった。初めて3000メートルを超す山(西穂高)に登ったのも、これまた裁判官となった同期生らとであった。

特に、長野修習では、5人しかおらず、年齢も比較的近く、よく飲みに行き(元書記官経営の居酒屋で)、スキー(裁判所修習で)、ゴルフ(弁護修習で数回も)も体験させて貰った。私が、運転免許を取ったのも長野で、比較的に時間が取れた(?)検察修習で、検察事務官が、教官をしていた自動車教習所に通ってであった。

実は、私は、研修所入所直前に結婚し、家内(入所前面接当時婚約者)の実家が松本であることを正直に漏らしたために、長野修習を命じられた経緯もあった。しかし、いわば観光地でもある長野で新婚時代を過ごせたのも今では良い思い出の一つだ。免許取得後、兄から貰ったオンボロ軽4輪車(ホンダNⅢ)で、よく近くの観光地にドライブしたり、裁判所のテニス・コートで、軟式だが、夫婦でテニスを楽しませて貰った。

また、今、私が弁護士でいる大きな転機も、弁護修習だった。当時、私は、親類、縁者、先輩にも法曹がいない環境で、研究者に戻るか、任官するかなど迷っていた。弁護修習先の宮澤事務所は、当時、長野では多くの大手企業や長野県の顧問となっていた最優良事務所の一つであったが、宮澤先生のご自宅での生活ぶりは、名家の出身であることもあり、古武士の趣を感じさせる質実なものだった。いわゆる金権弁護士とは無縁だった。それまで弁護士の公的活動等には惹かれつつも、その生活が派手で自分の肌には合わないと勝手に敬遠していた憂いが吹っ飛び、現在の道に大いに進んだ経緯がある。